第２回　第２部　これからの時代に必要なキャリア教育

筑波大学人間系教授・教育学類

藤田　晃之　氏

１９６３年茨城県生まれ。１９９３年筑波大学院博士課程教育学研究科単位取得退学、中央学院大学商学部助教授、筑波大学教育学系助教授、デンマーク教育大学院（現：オーフス大学大学院教育研究科）客員研究員、筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科准教授、文学科学省　国立教育政策研究所　生徒指導・進路指導研究センター総括研究官（同省　初等中等教育局　児童生徒課生徒指導調査官（キャリア教育担当）及び　同局教育課程教科調査官（特別活動担当）併任）等を経て、２０１３年より筑波大学人間系（教育学域）教授。

◆　トークセッション発言要旨

- ふた昔前のキャリア教育はニートフリーター対策。現在はそうではく、職業人、家庭人、地域社会の一員など様々な役割を担いながら生きているという前提で、子供たちとともに大人も成長していく、そういう教育が必要。
- **日進月歩の知に対して、自ら進んで関わっていこう、対応していこう、学び続けていこうということが、Society5.0とキャリア教育の接点としては重要。**
- （一方、）グローバル化が同時進行し、国の枠を超えて人が行き来しあうため、新たな課題に対応せざるを得ない。**自分と異なる文化、宗教、言語、社会背景、そういった異質な他者と共にコミュニティを作り、ともに課題に対応していく力を同時に身に付けなくてはいけない。学び続けていく力と、自分と異質な他者を認め、一緒にコミュニティを作り、共に課題に対応していく力が必要**。
- **ただし、地域や学校ごとに子どもは違う。どこかうまくいっているキャリア教育をそのまま持ってきてもうまくいかない。**
- **「今学んでいることは自分に重要」、そして「この学びは将来こんな力に繋がっていく」ということを、子供たちに伝えていくことがキャリア教育の本質**。教科をなぜ学ぶのか、それを通じてどのような力が身につくのかといった、教科を学ぶ本質的な意味を明確化することが必要。今学んでいることは役に立たない、意味がない、試験のためには仕方がないということでなく、今学んでいることは、社会、人生に繋がり、社会や若者を豊かにしていく学びこそが深い学びであり真の姿であるということを伝える。こうしたことを、特別活動を要としつつ、すべての教育活動を通して実施することが重要。
- （課題探究が深まらない、という現場の課題に対して）地域や企業との共通認識が先生方とどの程度共有されているかが重要。課題研究の面倒を先生が全部見るのではなく、地域の方々とチームワークをとっていくことが重要。

◆　山口県への提言

- **山口県は先駆性がある。「やまぐち教育応援団」は、2008年から運用されており、登録事業者数が4,987。どこの県にもこういうものはなかった。キャリアパスポートも、山口県では、平成22年の重点施策の中に「夢と学びをつなぐキャリアプラン」として盛り込まれている。一方、現在はどうなっているかというのは課題としてある**。
- 自治体についての学習は、小学校3年生でしか行われていない。小学校高学年では県の学習をして、中学校では中国地方などの学習をして、県の学習はしない。**各自治体が愛情を込めて作っている教材が活用しきれていない**。例えば、中学校で地域の職場体験等を、小学校3年生で学習した内容が消化しきれていない中で実施するのはもったいない。少なくとも消化しきれなかった部分については、中学校で学習すべきだと思う。
- コミュニティ・スクールの導入時に、味方が増えて先生の肩の荷が下りるという実例を、行政側がもっと発信しないと、会議が増え、意思決定が複雑になり学校がダメになるのではないかという不安が先に来る。
- 学生自身が自分の物差しで自分がどこを目指すのかと考えた時に、**モデルや憧れが多いほうが良い。学校だけではなく、地域の方と一緒に子供を育てた方が良い。**

草創期のキャリア教育の焦点

- ニート・フリーター問題への対応策のひとつとして登場（1999［平成11］年・中教審答申、2003［平成15］年・若者自立・挑戦プラン）

↓

- 「小学校では早すぎる」との評価の定着化
- いわゆる「進学校」と評される高校での不活性化
  - むしろ、キャリア教育への否定的態度の助長

↓

- 予算がついて全国展開する「中学校での職場体験活動」の突出化（2005［平成17］年度～文科省「キャリア・スタート・ウィーク」）
  - なんだ、キャリア教育っていうのは、中学で職場体験をさせればいいだけなんだ……

今日のキャリア教育の定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。

●「キャリア」とは何か？

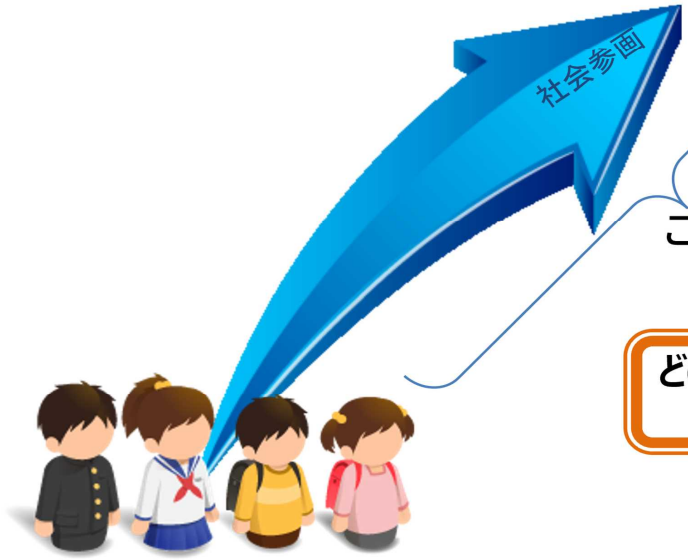
人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。（中略）このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。

また、このように、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア発達」という。

※中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成23年1月）

- 第4次産業革命　・Society 5.0
- グローバル化や知識基盤社会の進展

・幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断
・学び続ける力
・切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々と共存していくこと　等



ここを意識した資質・能力

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

＝

キャリア教育の視点

総則が示すキャリア教育実践の在り方

－小・中・高に共通する規定－

児童・生徒が，

- 学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、
- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力※を身に付けていくことができるよう，
  ※各学校が、目の前の子供の実態に即して設定する
- 特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて，キャリア教育の充実を図る。

なるほど、今学んでいることは、自分にとって重要なんだなぁ

なぜなら、この学びを通して、将来必要なこんな力が身につくのだから

特別活動を要としつつ、すべての教育活動を通して実践する

学級活動・ホームルーム活動

現行

- **小学校**
  - （1） 学級や学校の生活づくり
  - （2） 日常の生活や学習への適応及び健康安全
- **中学・高校**
  - （1） 学級（ホームルーム）や学校の生活づくり
  - （2） 適応と成長及び健康安全
  - （3） 学業と進路

新

- **小・中・高共通**
  - （1） 学級・ホームルームや学校における生活づくりへの参画
  - （2） 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
  - （3） 一人一人のキャリア形成と自己実現

「特別活動に関する指導力は、免許状がないこと等から専門性という点で軽く見られがちであるが、本来、小・中・高等学校の全ての教員に求められる最も基本的な専門性の一つである」（p.235）

学級活動・ホームルーム活動

- 小・中・高共通

  （1）学級・ホームルームや学校における生活づくりへの参画

  （2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

  （3）一人一人のキャリア形成と自己実現

- 内容の取扱い

  (3)の指導に当たっては，学校，家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て，学んだことを振り返りながら，新たな学習や生活への意欲につなげたり，将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際，児童/生徒が活動を記録し蓄積する教材（＝キャリア・パスポート）等を活用すること。

リクルート進学総研「キャリアガイダンス」　編集顧問

角田　浩子　氏

１９５８年神奈川県生まれ。１９８１年東京大学教育学部教育心理学科卒業。
同年株式会社リクルート入社、出版部配属。高校進路指導の専門誌「キャリアガイダンス」編集、高等教育機関の学校経営専門誌「リクルートカレッジマネジメント」編集を経て、１９９８年４月より「キャリアガイダンス」編集長。２０１３年１０月より同編集顧問。全国の高校で取材・講演多数。
文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会臨時委員（２０１５年～）

◆ トークセッション発言要旨

- キャリア教育は職場見学やインターンシップに限られることではなく、教育そのものだと思っている。
- 岡山県倉敷南高校（普通科）では、自分の進む方向が何かしら決まっている子どもたちに、ゆさぶりをかけることで、自分の言葉で自分の夢を語る生徒を作りたいという目的から、地域連携での探究活動を始めた。町衆プロジェクトという、地域の方たちを町衆と呼んで巻き込んで、仕事や進路について大人と語り合う、訪問・見学し課題を見つけポスターセッションをする、といった取り組みを３年間のプロジェクトで実施している。ルーブリック評価により自己評価を繰り返し、自分の進路につなげていくことで、イベント型ではない進路につながる仕組みとしている。
- 大分県佐伯豊南高校（総合学科）では、自分が何をしていったらよいかわからない子どもたちに、多くの体験をする中で課題解決力やコミュニケーション能力を育んでもらう取り組みを実施。佐伯テーマに探究活動を行っている。具体的な提案実施につながり、進路にもつながった子どももいる。
- 生徒会活動もキャリア教育の一環となる。東京の私立校の例だが、学校の一員として学校環境の改善を行っている。
- 現状の地域連携型学習は、お仕着せの課題になっていることが多い。**紹介事例は、本当に子どもたちの中から生まれてきた課題。先生は生徒への問いかけという形で自らの問いをみつけさせることができるのではないか**。

◆ 山口県への提言

- キャリア教育のポイントは、生徒が違和感を感じたり、問題だと思っている、何とかしないといけないという意識をちゃんと育むようにすること。そのプロセスで、多数決では無い、合意形成の場を経験していくことが非常に重要と考えている。
- 生徒たちには実は力があるので、任せるということが必要。大人側には任せる勇気が必要だが、生徒は大人を乗り越えていくもの。自分たちを乗り越えてくれというスタンスを持つことが重要。
- **教員や進路指導やキャリア教育は、変われ変われと言われて、苦しい状況になっている。「JAPAN e-Portfolio」の活用が大学入試で映えるような記述にしようという、本末転倒なこともおきている。**探究活動も研究成果のみに重きを置かれる可能性がある。**本来はプロセス重視で、どんな力が身についたかが重要**で、成果のほうを評価する風潮を崩さないといけない。

実践事例

倉敷南高校（岡山・県立・普通科・単位制）

キャリアガイダンス Vol.416

探究学習 地域連携

生徒の価値観を揺さぶり、自己決定を促す

問題意識

入学時点で目指す職業や将来の目標を持っている生徒が少なくない。
（身近な目に付く範囲からの目標設定）

目指す姿

社会や職業に対する厚みのある理解をして、志をもって選択すること
「自分の言葉で自分の夢を語れる生徒」

揺さぶりを掛け、進路設定につながる資質や意欲、志を育成

倉敷町衆プロジェクト（マチプロ）

1年次　「ラーニングカフェ」　・・・町衆と仕事や進路について語り合う
「フィールドワーク」　・・・市内の企業や施設を訪問・見学
「ポスターセッション」・・・発見した課題について研究、発表
2年次　学校設定科目「キャリアⅠ」で、さらに発展させた
課題研究 小論文にまとめる
3年次　文化祭で、地域や世界の課題をﾃｰﾏにしたディベート大会

次の一歩につなげる

年間5回以上の面談実施 ・・・・▶
① オリジナル手帳「M-PRiDE」
② マチプロでのポスター
③ ルーブリックでの自己評価

将来につながる気づきや問題意識が生じても本人が自覚していない場合も。
それを掘り起して、**点を線にして進路につなぐ**のが「教師の役割」

All rights reserved Recruit Co.,Ltd. 2017 .

事例共有

大東学園高校（東京・私立・普通科）

キャリアガイダンス Vol.427

生徒・教職員・保護者の三者協議会で
生徒の主権者意識や合意形成力を身につける

✓ 三者協議会の仕組み

各クラス、各委員会、生徒会の意見吸い上げ
→教職員・保護者との三者交流会
→学年別　生徒と教職員の二者懇談会
→三者懇談会で意見交換・現場視察
→生徒アンケート実施・各学年で検討
→三者協議会で決定

休日開催なのに生徒が100人参加

✓今までに実現したこと　男子の髪型規定・女子のサニタリーボックス・授業改善・・
✓生徒一人ひとりが主体者として考え行動できることを目指す
学校や社会の一員として自己決定する力を育む

All rights reserved Recruit Co.,Ltd. 2019

事例共有

佐伯豊南高校（大分・県立・総合学科）

キャリアガイダンス Vol.424

探究学習 地域連携

地域連携で脚本のない探究ができる「場所」や「チャンス」を提供

✓ 佐伯鶴岡高校と旧・佐伯豊南高校が統合（2014年開校）

4つの学科➔
① 総合学科
② 食農ビジネス科
③ 工業技術科
④ 福祉科

SHAプロジェクト
SAIKI HOUNAN ALL

将来何をした いかまだわからないまま、漠然とした夢をもって入学してくる。
生徒の興味・関心が呼び起こされ、自分で次の道を切り拓いていく『自分力』を磨く

➔「地域とともに」学習する場を実現し、課題解決力やコミュニケーション能力等を育む

All rights reserved Recruit Co.,Ltd. 2019

事例共有

佐伯豊南高校（大分・県立・総合学科）

キャリアガイダンス Vol.424

探究の核となる授業
SHAプロジェクト

1 年	2 年	3 年
産業社会の人間 「自分を見つめ、将来の夢を描き、自分の力で実現させていく」ことを目的に、さまざまな体験学習や発表に取り組む	**「虹」の時間** （総合的な学習の時間） 10人前後のグループで、地元・佐伯を盛り上げる企画を考える。その活動のために佐伯の風土・文化・産業なども学ぶ	**「未来」の時間** （総合的な学習の時間） 生徒一人ひとりが個別に課題を設定し、「佐伯の活性化」または「自身の興味・関心・進路」につながる研究を行う

探究活動とさまざまな機会を関連付け

探究における「情報収集」「仮説の実行・検証」「発表」等に活用する場所・チャンス

	1 年	2 年	3 年
校内	4月 学科集会での各学年の活動発表	来校した海外の学生や留学生との交流	地域の人などを招いたワークショップや講話	4学科 合同学修成果発表会（全学年発表）	総合学科 実践報告会（全学年発表）
校外	大学の出前講座、学校見学	市・県・国内での各種コンテスト	地元事業者や役所でインターンシップ	地元商店街に出店のアンテナショップ	地元のお祭り（春の祭典や夏の七夕祭り等）

All rights reserved Recruit Co.,Ltd. 2019

事例共有

佐伯豊南高校（大分・県立・総合学科）

キャリアガイダンス Vol.424

図2 3年生「未来」の時間の個別研究テーマ例

分野	生徒それぞれのテーマ
観光	佐伯の恐い観光名所　～お化けを見たい～
	佐伯ラーメンを全国へ　～ホームページで佐伯を紹介
	佐伯フォトポスター　～フォトポスターでPR活動～
イベント	東北と九州をつなぐ絆　～県を越えたスイーツ
	図書館利用率を上げよう　～目指せハッピーセブン全員達成～
商品開発	ゲーム制作　ゲームで佐伯を広めよう
	カボスぷりんの研究　～佐伯の特産品を使った商品開発～
	ご当地ソング　～佐伯のご当地ソングを作ろう♪～
食	佐伯のお魚世界を旅する　～佐伯の魚を知り尽くせ!～
	スポーツと食事　～スポーツと食事の関係性
保育	おやっ!!　～栄養いっぱい!　苦手なものの克服～
	子どもの笑顔で佐伯を元気に!　ダンスでつくる笑顔の輪
医療	食べやすい病院食づくり～医療に役立つために～
	佐伯で作るリハビリ　～佐伯から広げるリハビリの輪
防災	私たちの身近な危険　～命を守るために～
	楽しくできる防災訓練をしよう

探究の核となる授業
SHAプロジェクト

探究における「情報収集」「仮説の実行・検証」「発表」等に活用する場所・チャンス

校内

校外

3 年

「未来」の時間
（総合的な学習の時間）

生徒一人ひとりが個別に課題を設定し、「佐伯の活性化」または「自身の興味・関心・進路」につながる研究を行う

関連付け

4学科
同学修成果
発表会
（全学年発表）

総合学科
実践報告会
（全学年発表）

元商店街に
出店の
ショップ

地元のお祭り
（春の祭典や
夏の七夕祭り等）

All rights reserved Recruit Co.,Ltd. 2019

これから(今すぐ!)のキャリア教育のポイント

●生徒の「課題意識」の醸成　世界・日本・地域・校内

×インターンシップで働く厳しさを感じました

探究　プラス　ポートフォリオ、キャリア・パスポートで
さまざまな活動で得た本人が気づいていない「気づき」を

●意思決定・合意形成の経験を

特別活動(生徒会・ホームルーム ・学校行事)をキャリア教育の要に

●生徒にこうなりたいと思われる大人の存在

●教師を助ける存在の多様化と増加

●生徒に任せる勇気

●自分たちを乗り越えてもらうというスタンス

この議論に若者を!

All rights reserved Recruit Co.,Ltd. 2019

株式会社キャリアリンク　代表取締役

若江　眞紀　氏

１９８７年に株式会社アクセプト設立。生活者からの視点に基づいた新たな市場戦略により、企業のマネジメント戦略、マーケティング戦略の策定・実施を総合的にサポートするクリエイティブ・コンサルティング事業を展開し、現在も活動中。子育てを通して日本とアメリカの教育に同時に触れた経験から、日本の教育に課題を感じ、１９９１年に保育・教育分野に特化した株式会社キャリアリンクを設立。企業の教育CSRや官公庁・自治体の教育施策へのコンサルティング事業を通じて、産業界と教育界をつなぐ次世代育成に取り組む。～）

◆　トークセッション発言要旨

- 企業が新卒を採用するにあたって重視する力は、コミュニケーション能力、主体性、協調性、チャレンジ精神。20年前は、1位は熱意、気合。この20年を比較するとほとんど同じものはない。
- 教科で学んでいることをどう活用するかには適切なテーマが必要であり、そのテーマは、産業界と共通的な課題として中央にあげている「SDGs」。社会の課題そのものが学習テーマになってくる。
- **企業が教育に関心をもつ位置付けもずいぶん変わってきている。CSRといわれる企業の社会的責任から、CSV（クリエイティブ シェアド バリュー）という共同で解決する社会課題という位置付けになっている。だからこそ企業はもっと本気で教育連携に取り組まなければならない状況にある。**
- キャリアリンクが作成している冊子（キャリア教育プログラム開発推進コンソーシアム会報誌Vol.13）には、どんな企業が、どのような授業に関わる教育プログラムを提供しているかの情報が掲載されており、学校現場は学年に合わせて教科・単元の導入や発展でどう活用すればよいか、わかりやすく掲載されている。
- アメリカ カリフォルニア州では、学習に課題のある地域の高校などで、空いている教室に色々な企業を入れ込んで、自社会の仕組みをそのまま授業に組み込み、その仕事に必要な教科・単元を認識することで学びへの意欲を喚起している。学校ごとに誘致する企業に特色を出し、生徒は自身の関心に応じて学校を超えて授業を選択することができる。

◆　山口県への提言

- （山口県では）**先進的にコミュニティ・スクールや学びのポートフォリオを進めているが、やり遂げられていないのではないか。新たな時代の人づくりを検討されているいいチャンスなので、（課題を整理し）リスタートをするべき。**
- 高校でコミュニティ・スクールをスタートするときに絶対に失敗にしてほしくないことは、他県の小中のコミュニティ・スクールを見ると、運営協議会のメンバーに、団体の長のみを集めて、**肝心な生徒のためにやるとか、リアルな生の声をあげられる人をおいていないケースが多い。運営協議会はまず学校が教育方針を示して、地域の方、企業の方から意見や連携を得る場でないといけない。**
- 高校段階でレベルの高い探求活動を実施しようとすれば、小中学校の間にきちんとした資質能力が育成されていないと、いつまでたっても「ごっこ遊び」の探求にとどまってしまう。探究活動に関するノウハウを蓄積し、山口版の事例を作っていただきたい。小中学校の間は、いろんな職業が山口にあるということを知るだけでも良く、高校になるとリアルな課題に学んだ知識・技能を活用しながら、リアルに取り組むことが必須。
- 企業が高校の授業に関わる際には、長期間かかわってもらう場合もあり、この取組は将来に向けた投資だということを産業界側、企業側に打ち出して、ともにやり遂げていくという気持ちを産業側にも持ってもらわないといけない。
- 全国各地での研修に行った際に現場の声を聴くと、コミュニティ・スクールの看板はついたが魂がないので機能していないケースもある。ここで、もう一度考え直してみましょうという機会を作ることが大事。
- **応援団のリストはどこの団体でも形骸化**しており、失敗しているが、その理由は、**応援団が支援したい内容と、学校のニーズがマッチしていないから。**

■学校現場が取り組もうとしていること

社会とつながる、身近で関心を持てるタイムリーなテーマ設定（アクティブラーナー）

社会で生きていくために必要な資質・能力の育成・発揮（育成する資質・能力設定）

協働的思考活動を充実・活性化させるための新たな学習手法の活用（ICT・ジグソー法など）

活動をふりかえり自身を知り将来について考えることを繰り返す

テーマに深くかかわる専門家の参画等による職業や社会を知る（職業観・就労観の醸成）

あらたな改善の糸口を見つけ出すための評価と指導の一体化（ルーブリックの活用）

特別活動など学級経営充実へのプロジェクト型の取り組みによる発達段階に応じた体系的なキャリア開発

９年間の系統立てたカリキュラム・マネジメント

■産業界の動き

教育HR戦略

2018年～／ESGの本格化

教育CSV

2015年頃～／CSVの本格化●社会課題解決

教育CSR

2000年～／CSRの本格化 ●次世代育成

社会貢献

～2000年／社会貢献活動

・ESG投資を踏まえた戦略的な活動

・社会課題(SDGs)へのコミットメント

■学校と社会（地域・企業）の効果的な協働ために

校長のマネジメント力が重要！

学校地域連携担当教員
全教職員

保護者・地域・企業の
学校教育

**学校の教育方針や課題
の共有と理解**

地域学校協働活動推進員
地域コーディネーター

↓

**社会とつながる教育実現のために
互い知ることからスタートしましょう！**

■　企業教育支援活動の方向性

学校現場の変化、ニーズにこたえる教育支援活動＝教育ＣＳＲ

ＣＳＲ（企業の社会的責任）

▼

ＣＳＶへ

※Creating Shared Value（共有価値の創造）

自社の強みを活かし、
社会と企業の持続的な発展を戦略的に行っていくこと
教育CSRをコストとしてだけではなく、
将来に向けた投資、収益を生み出す機会と捉える活動へ